

IUT 理論提唱者 望月新一と

道田信一郎先生のかかわり

RIMS 京大数理解析研究所の望月新一教授 (1969年3月東京生れ) は輝一・アン夫妻の令息だ。父 輝一 (東大法学部卒、新日鉄) が社費留学生派遣制度でミシガン大学経営大学院を志願し、同大学に知己の多い道田信一郎京大教授 (当時) が会社の依頼に応じて推薦状を書かれた経緯がある。

留学中米国人アンと結婚して帰国した父 輝一の転勤で、新一は5歳で米国に渡り、中学1年間は筑波大付属駒場で過ごした外は米国で学んだ。1985年伝統校フィリップス・エセター・アカデミーを卒業後1988年19歳でプリンストン大学を卒業し、1992年23歳で同大学院に博士論文を出して卒業した。指導教授はフィールズ賞受賞のゲルト・ファルティングス (現在はマックスプランク数学研究所) だが、自尊心の強い新一に対してはハイレベルの研究テーマを与えただけで、細かな指導はしなかったとのことだ。博士号取得直後の23歳でRIMSの助手、27歳で助教授、32歳での教授昇進は異例の速さだ。

道田先生の推薦無かりせば、輝一はミシガン以外の大学に留学した可能性もあり、その場合はアンと出会う確率をゼロと見てよいから、天才 望月新一は誕生しなかったとさえ考えられる。彼が大数学者になるとは道田先生も予想されなかっただろうが、廻り合わせの一環を担うことで、結果的に道田先生は世界の数学界に思いもよらぬ大きな貢献をされることとなったわけだ。

IUT 理論 (宇宙際タイミュー理論) の公表から7年余経ち、RIMS 内に設置の検証委員会 (審査の公正を期し、当然ながら望月教授を終始除外) が長年の作業を終え、共同編集委員長たる玉川安騎男教授と柏原正樹元所長・特任教授が結果を発表した。論理に飛躍無く、正しいと認め、RIMS 機関誌への掲載を決定した (2020年4月3日)。なお、RIMS はフィールズ賞 (広中平祐、森重文) そのほか、数多くの受賞者を輩出しており、前記の柏原教授はチャーン賞受賞でも知られる。

[角川書店 2019年刊 加藤文元著「宇宙と宇宙をつなぐ数学…IUT 理論の衝撃」などを参考に高山が纏めた。著者は望月新一と同年齢の東工大教授で、京大理学部数学科の准教授ときに望月氏の良き話し相手・理解者として IUT 理論の熟成に貢献し、自身の研究とは別に、IUT 理論の理解者を増やす努力もされている。同氏によれば、いずれ IUT 理論の正しさは世界でも認められようが、数個のノーベル賞にも相当する偉大な業績だ、と太鼓判だ。IUT 理論が成り立てば、ABC 予想など 10 を超える未解決の数学上の超難問 の解決が直ちに見込めるからだ。

例えば、フェルマーの死後 330 年経つ 1995 年に漸くワイルズが証明した所謂フェルマーの最終定理 (厳密には、フェルマーの予想のうち証明が最も遅れた難問というものであり、今後ワイルズの定理と呼ばれるべきもの) という難問も IUT 理論を使うと容易に証明できる由。新概念と 600 頁超の全く新しい数学の世界を展開し、更に 500 頁超の既発表論文をも引用するため、世界の数学者が苦しみ悲鳴をあげる。理論物理学で数々の理論を提唱したアインシュタインが、肝心の相対性理論の評価が遅れて、光量子仮説による光電効果理論の方でノーベル賞を得た前例のように、望月新一の IUT 理論が広く理解を得るには時間がかかるようだ。それほど斬新な数学世界を殆ど独力で開拓したのだから、泉下の道田先生もお慶びだろう。なお、RIMS 京大数理解析研究所にはダブル望月という言葉がある。望月新一教授 (前記) と望月拓郎教授 (1972 年生まれ、京大卒) の二人の凄い学者 のことだが、このことも知っておきたい。後者は微分方程式の難問「柏原予想」の証明により 2021 年 9 月にブレイクスルー賞 を単独受賞 (賞金 3 百万ドル) した。なお、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥・大隅良典の両名も同賞を以前に受賞している。]

以上